

統轄スルヲ得レハナリ然レトモ戰況、地形及作業地域ノ關係ニ依リ指揮困難ナルトキハ之ヲ分割シテ他隊ニ配屬スルコトアリ此場合ニ在リテモ其必要終レハ速ニ之ヲ工兵指揮官ノ隸下ニ復セシムルコト緊要ナリ

他隊ノ作業ヲ指導スル工兵ハ通常該隊ニ配屬スルヲ可トス作業ヲ援助スル場合ニ在リテモ亦之ヲ可トスルコトアリ

狀況特ニ作業ノ種類ニ依リ他隊ヲシテ工兵ヲ援助セシムル場合ニ在リテハ通常作業ニ關シ工兵指揮官ノ指揮ヲ受ケシムルヲ可トス

第二一 工兵指揮官ハ通常高級指揮官ニ直屬シ工兵ノ全部若ハ

大部ヲ以テ又時トシテハ他隊ヲ併セ指揮シ戰鬪ノ全局ニ關シテ必要ナル作業ヲ擔任ス

他隊ニ配屬セル工兵ハ其所屬部隊長ノ意圖ニ基キ專ラ該隊ノ戰鬪進捗ニ必要ナル作業ヲ行フモノトス

工兵他隊ノ作業ヲ指導スルトキハ將校ハ作業ノ計畫、部署及實施ニ關スル幫助ヲ爲シ下士兵卒ハ作業ノ方法ト模範トヲ示スモノトス又之ヲ援助スル場合ニ在リテハ工兵ハ其特有ノ技能ヲ要スル作業ヲ擔任スルヲ常トス

第四 工兵ハ成ルヘク集結シテ使用スルヲ可トス故ニ各種ノ作業ヲ擔任スルトキハ其緊急ノ程度ヲ顧慮シ全力ヲ以テ先ツ第

一ニ完成スヘキ作業ニ著手シ逐次其他ニ及ホスヘシ然レトモ各種ノ作業ヲ概ネ同時ニ實施スルノ必要ナル場合ニ在リテハ兵力ヲ區分シテ使用スルモノトス

狀況特ニ必要ナルトキハ一時工兵ノ一部ヲ豫備トシテ控置スルコトアリ

第五 戦闘一タヒ端緒ヲ開クヤ工兵ハ其終局ニ至ルマテ戦闘ノ進捗ニ應シ逐次ニ必要ナル諸種ノ作業ヲ行ハサルヘカラス之カ爲工兵指揮官ハ終始戦闘ノ經過ニ注意シテ現況ヲ知悉スルコト緊要ナリ而シテ作業ヲ實施スルニハ凡テ高級指揮官ノ命令又ハ認可ヲ受クルヲ要ス

第六 凡ソ戦闘ハ通常警戒部隊等特別ノ任務ヲ有スル部隊ニ依リテ其端緒ヲ開カル此局ニ當ル指揮官ハ主トシテ速ニ所要ノ配備ヲ爲シテ敵ノ前進ヲ防止シ敵情及地形ヲ偵察ス而シテ高級指揮官ハ所要ノ指揮官ヲ隨ヘ狀況ノ許ス限リ敵方ニ近ク其位置ヲ占メ彼我ノ狀況特ニ地形ヲ觀察シ警戒部隊等ニ動作ノ憑據ヲ與ヘ要スレハ本隊ヲシテ開進ヲ行ハシム此際警戒部隊等ニ屬スル工兵ハ其指揮官ノ隸下ニ在リテ敵ノ前進ヲ防止スル等ノ爲必要ナル工事ヲ行フト雖其作業終リ或ハ其必要ナキトキハ通常高級指揮官ノ直轄ニ復シ主トシテ本隊ノ展開又ハ開進ヲ容易ナラシムヘキ作業ヲ實施ス

工兵指揮官ハ高級指揮官ノ意圖ニ基キ所要ノ偵察ヲ爲シ該指揮官ニ決心及處置ヲ爲スニ必要ナル資料ヲ供スルモノトス

第七 高級指揮官戰鬪一般ニ關スル決心ヲ定メ之ニ基キテ命令ヲ下スヤ歩兵ハ攻撃運動ヲ始メ或ハ所命ノ地點ヲ占メ砲兵ハ先ツ陣地ヲ占領ス工兵ハ此際通常舉ケテ高級指揮官ノ直轄トナリ若ハ必要ニ應シ其一部ハ第一線部隊ニ屬シ攻撃運動或ハ陣地占領ヲ容易ナラシムル爲所要ノ作業ヲ實施スルモノトス

第八 工兵指揮官ハ高級指揮官ヨリ命令ヲ受領セハ之ニ依リ彼我ノ狀況、高級指揮官ノ意圖及自己ノ任務等ヲ知得シ直ニ所要ノ偵察ヲ行フヘシ之カ爲要スレハ必要ノ將校ヲ使用スルモノ

トス

偵察ハ迅速ニ行ハサルヘカラス苟モ其時機ヲ失セハ縦ヒ精確ナル結果ヲ收ムルモ全ク其價值ナキモノトス然レトモ徒ニ急速ヲ旨トシ粗漫ニ流ルルコトナキヲ要ス作業ノ效果ハ一ニ懸リテ其當否ニ在リ

第九 偵察ノ結果ニ依リ工兵指揮官ハ迅速且正確ニ作業ノ計畫及部署ヲ決定スヘシ

計畫及部署ノ要ハ狀況殊ニ我カ目的ニ基キ現下必須ノ要求並使用シ得ヘキ時間等ヲ顧慮シテ作業ノ種類、程度及實施ノ順序、方法ヲ定メ之ニ適應スル如ク人員及器材ヲ配當スルニ在リ

第十 作業ノ計畫及部署決定セハ工兵指揮官ハ之ニ基キテ部下各指揮官ニ命令ヲ下スヘシ而シテ命令ハ簡明確切ニシテ各指揮官ニ彼我ノ狀況、己ノ意圖、部下各隊ノ任務及器材ノ配當等ヲ會得セシムルヲ要ス

命令ヲ下スニハ部下各指揮官ヲ集メ現地ヲ指示シテ合同ノ命令ヲ與フルヲ可トスト雖各別ノ命令ヲ下シ或ハ先ツ單簡ナル命令ヲ以テ速ニ各隊ヲ所要ノ位置ニ到ラシメ次テ詳細ノ命令ヲ下スヲ利トスルコト屢之アリ但作業若ハ戰鬥中ニ在ル部隊ノ指揮官ヲ遠隔セル地點ニ招致シテ命令ヲ與フルカ如キハ總テノ場合ニ於テ之ヲ避ケサルヘカラス

第十一 命令ヲ下セハ直ニ作業ノ實施若ハ準備ニ著手スヘシ此際工兵指揮官ハ速ニ豫定完成時刻要スレハ計畫ノ大要ヲ高級指揮官ニ報告スヘシ

第十二 工兵指揮官ハ部下各隊ノ作業ヲ統一シテ實際ノ要求ニ適應スル如ク之ヲ實施スヘシ殊ニ適時ニ之ヲ完成シ一般ノ戰鬥動作ヲ遲緩セシメサルコト緊要ナリ

第十三 各級指揮官ハ作業ノ實施ニ著手セハ縦ヒ不慮ノ障礙ニ遭遇スルコトアルモ徒ニ其計畫ヲ變更シ或ハ其實施ヲ遲疑スルコトナク堅確ナル決心ヲ以テ之ヲ敢行スヘシ又狀況ニ變化アルトキト雖空シク命令ヲ待ツコトナク各其職域ニ應シ機宜

ニ適スル處置ヲ決行シ直ニ之ヲ報告スヘシ

第十四

作業ヲ實施スルニハ常ニ敵眼ニ遮蔽スルコトニ注意スヘシ然レトモ狀況之ヲ要スレハ縦ヒ敵ニ暴露スルモ之ニ顧慮スルコトナク勇敢敏捷ニ動作スルヲ要ス

第十五

作業ヲ實施スルニ方リ之ヲ掩護スル部隊ナキ場合ニ於テハ自衛ノ處置ヲ爲ササルヘカラス而シテ作業中敵襲ヲ受クルトキハ直ニ所要ノ兵力ヲ之ニ對セシメ殘餘ハ作業ヲ續行スルヲ要ス

第十六

工兵指揮官ハ作業實施中終始高級指揮官ニ連絡シ時々作業進捗ノ景況ヲ報告スルト共ニ關係アル部隊長ニ通報ス

ヘシ又要スレハ次テ實施スヘキ作業ニ關スル偵察ヲ行ヒ其計畫ヲ策定シ置クヘシ部下各指揮官モ亦此要旨ニ從ヒ工兵指揮官ニ確實ナル連絡ヲ保チ常ニ爾後ノ要求ニ應シ得ル如ク準備スルヲ要ス

第十七

工兵指揮官ノ位置ハ全般ノ作業ヲ指揮スルコトヲ主トシテ之ヲ定ムヘシ其他命令及報告ノ速達スルコトモ亦顧慮セサルヘカラス若部下ノ各隊遠ク分離シテ作業スル場合ニ在リテハ最モ重要ナル作業ヲ實施スル地點ニ位置シ又必要ニ應シ各隊ノ作業ヲ實視スヘシ而シテ其位置ヲ換フルトキハ命令、報告等ノ遲滞ナク新位置ニ到着スル方法ヲ定メ置クヲ要ス

第十八 命令、通報及報告ヲ傳達スル爲工兵指揮官ハ傳令及電話ヲ準備シ又ハ信號ヲ定メ記號ヲ設クル等諸種ノ手段ヲ講スヘシ

第十九 工兵作業ヲ行ハサルトキハ工兵指揮官ハ臨時ニ發生スル作業ノ需要ニ應スル爲戰況ノ推移ヲ知悉スルノ便ヲ顧慮シ通常高級指揮官ノ許ニ位置スルヲ可トス

第二十 戦闘ヲ實行スルニ方リ作業ヲ行ハサル工兵ハ通常歩兵ト共ニ豫備隊トナルモノトス而シテ其隊形ハ勉メテ掌握ニ便ニシテ且地形ニ適合シ行進容易ナルモノヲ選フヘシト雖敵火ノ損害ヲ少クスルコトモ亦顧慮セサルヘカラス

第二十一 工兵他部隊ト協同シテ戦闘スル場合ニ在リテハ之ト連繫ヲ保ツコト緊要ナリ然レトモ唯連繫ニノミ留意シテ自己ノ任務ノ遂行ヲ躊躇スルカ如キハ嚴禁トス

第二十二 戦闘ノ進捗ニ伴ヒ歩兵及砲兵ハ射撃ノ威力ヲ最高度ニ發揚シ歩兵ハ終ニ突撃ヲ實施ス之カ爲工兵ハ先ツ其進路ヲ開キ次テ歩兵ト共ニ突撃ヲ行フヘシ

第二十三 戦勝ヲ豫期シ得ルニ至レハ工兵指揮官ハ時機ヲ失セス追撃ノ準備ヲ爲スヲ必要トス

第二十四 退却ハ敗走ニ陥リ易ク動モスレハ收集スヘカラサルニ至ルモノトス故ニ工兵ハ縦ヒ戰況不利ノ場合ニ在リテモ

諸種ノ手段ヲ盡シテ他兵種ニ協同シ戰勢ヲ挽回スルコトヲ圖ルヘシ

第二十五 夜間ハ軍隊ノ指揮及動作共ニ困難ニシテ動モスレハ錯誤ヲ生シ易シ故ニ工兵ハ夜間ニ於ケル作業ノ爲ニバ特ニ計畫及準備ノ周密ト部署ノ單簡トヲ必要トス又之ニ關スル命令ハ成ルヘク晝間ニ之ヲ下シ日没前ニ諸種ノ準備ヲ完了セシムルヲ可トス又事後ニ於テ第一ニ爲スヘキ處置ヲ豫メ示シ置クヲ利トスルコトアリ

第二章 攻 撃

要 領

第二十六 凡ソ攻撃ハ勝利ヲ得ヘキ唯一ノ手段ニシテ要ハ剛健ナル意志ヲ以テ專心敵ニ向ヒ勇進スルニ在リ然ルニ天然人爲ノ障碍ハ之ヲ阻害シテ其遂行ヲ困難ナラシムルコト多キヲ以テ攻撃ニ於ケル工兵ノ作業ハ此障碍ヲ排除シテ歩兵ノ攻撃前進殊ニ突撃ヲ容易ナラシムルヲ主眼トス

第二十七 攻撃部署ノ要訣ハ攻撃點ニ優勢ナル兵力ヲ使用スルニ在リ而シテ工兵ノ主力モ亦通常此方面ニ使用セラル然レトモ其他ノ方面ニ於テ重大ナル工事ノ施設ヲ必要トスルトキハ工兵ノ大部ヲ其方面ニ使用スルコトアリ

第二十八 攻撃ハ包圍ニ依ルヲ有利トス包圍ハ敵ノ正面ト側面トヲ併セ攻撃スルモノニシテ通常數縱隊ノ併進ニ依リ又ハ後方部隊ノ加入ニ依リテ行フモノトス而シテ敵ノ側面ニ向ヒ進出スル部隊ヲシテ成ルヘク迅速ニ行動セシメンカ爲工兵ノ大ナル部隊ヲ以テ交通設備ヲ爲スヲ要スルコトアリ

第二十九 戰鬪ノ端緒ニ於テハ前衛等特別ノ任務ヲ有スル警戒部隊敵ノ前進ヲ防止スヘキ設備ヲ爲ストキ工兵ハ要スレハ其作業ニ參與スヘシ又其指揮官及高級指揮官ヲシテ狀況ヲ觀察スルニ便利ナル位置ヲ得セシメンカ爲工兵ハ迅速ニ良好ナル展望ノ設備ヲ行フヲ要スルコトアリ

第二十 高級指揮官攻撃ノ部署ヲ決シ之カ命令ヲ下スヤ各部隊ハ開進地若ハ行軍縱隊ヨリ展開スルヲ以テ工兵ハ交通路ヲ開設シテ其運動ヲ容易ナラシムルコトニ任スヘシ殊ニ砲兵ヲシテ良好ナル陣地ヲ得セシメンカ爲ニハ縦ヒ地形嶮惡ナルモ極力之ニ工事ヲ施シ以テ其陣地占領ヲ容易ナラシムルヲ要ス是砲兵陣地ノ良否ハ歩兵ノ攻撃前進ニ著大ノ關係アルヲ以テナリ

第二十一 各部隊展開ヲ完了セハ歩兵ハ次テ攻撃前進ヲ起シ一意敵ニ近接スルコトヲ勉ム故ニ工兵ハ成シ得レハ豫メ歩兵ト共ニ前方ノ地形ヲ偵察シ而シテ地障ニ遭遇セハ歩兵線ノ前方ニ奮進シテ之ニ通過ノ設備ヲ施スヘシ

第三十二 一旦占有セル地區ハ尺土ト雖再ヒ之ヲ敵ニ委スヘカラス之カ爲要スレハ工事ヲ施シテ其地區ヲ強固ナラシムルコトアリ此際工兵ハ必要ニ應シ歩兵ノ作業ヲ援助シ若ハ獨立シテ重要ナル地點ニ於ケル工事ニ任スヘシ然レトモ此工事ノ爲ニ攻撃ノ進捗ヲ遲滯スルコトヲ許サス

第三十三 後方部隊ノ取ルヘキ距離ハ狀況特ニ地形ニ依リテ變化ス開濶地ニ在リテハ戦闘ノ初期ニ於テ之ヲ太ニシ爾後漸次之ヲ短縮スヘシト雖歩兵ノ集束彈或ハ榴霰彈ノ爲ニ同時ニ縱方向ノ二梯隊ヲ損害セラレサル如ク注意スヘシ之カ爲必要ナル距離ハ約三百米トス然レトモ決戦ノ時機近クニ至レハ損害ヲ顧

ミス戦線ニ近接スヘシ

第三十四 決戦ノ機漸ク熟スルヤ通常砲兵ノ一部ハ最モ有
效ノ距離マテ前進シ機關銃モ亦勉メテ前方ニ進出スルモノトス
故ニ要スレハ工兵ハ時機ニ後ルルコトナク其進路ト陣地トヲ設
備セサルヘカラス

第三十五 敵ハ單ニ射撃ノ效果ニ依リ之ヲ驅逐シ得ルモノ
ニアラス必ス突撃ヲ實施スルヲ要ス之カ爲工兵ハ先ツ障碍ヲ排
除シテ進路ヲ開設シ次テ歩兵ト共ニ突撃ヲ決行シ敵ノ逆襲ヲ受
クルトキハ全力ヲ盡シテ奮闘シ突撃ノ成效ヲ期セサルヘカラス
第三十六 突撃部隊ニ屬スル工兵手榴彈ヲ使用スルトキハ

敵ノ不意ニ出テ一齊ニ之ヲ投スヘシ突撃ハ其瞬時ヲ利用シテ實行スルヲ要ス蓋シ敵ト手榴彈ノ戦闘ヲ交ヘタル後ニ於テ突入セントスルカ如キハ却テ進襲ノ氣勢ヲ挫折スルモノトス

第二十七 突撃成效セハ工兵ハ直ニ砲兵ノ進出ヲ容易ナラシメ又要スレハ奪取セル地區ヲ強固ナラシムヘキ工事ヲ行フヘシ而シテ之ニ與カラサル工兵ハ歩兵ト共ニ追撃射撃ヲ爲シ得ル地點マテ一意攻撃ヲ續行シ又追撃射撃ニ加ハラサル部隊ハ速ニ其隊伍ヲ整ヘ爾後ノ追撃運動ヲ準備スヘシ

敵ノ陣地ヲ奪取シタルトキニ於テモ徒ニ著大ナル目標ヲ現ハササルコトニ注意スヘシ然ラサレハ其瞬時ニ於テ敵陣ノ他部特ニ敵ノ砲兵ノ爲ニ多大ノ損害ヲ被ルコトアリ

第二十八 突撃ヲ撃退セラレタル場合ニ於テハ工兵ハ勇奮至近ノ所ニ蹈止マリ特ニ機敏且豪膽ナル動作ヲ以テ更ニ突撃路ヲ擴張シ或ハ立脚ノ據點ヲ急設シテ突撃復行ヲ容易ナラシメ極力其奏效ヲ期スルヲ要ス

遭遇戦

第二十九 遭遇戦ニ在リテハ特ニ先制ノ利ヲ占メンカ爲高級指揮官ハ縦ヒ狀況尙明瞭ナラサルモ斷乎タル決心ヲ以テ速ニ軍隊ヲ部署スルモノトス故ニ各級指揮官ハ戦況ノ變化ニ應シ高級指揮官ノ意圖ヲ満足セシムル如ク獨斷ヲ以テ動作スルヲ要ス

第四十 前衛ハ其任務ヲ達成スル爲要スレハ縦ヒ戦闘ヲ惹起シ又ハ正面過廣トナルコトアルモ戦闘ノ支撐タルヘキ要地ハ躊躇スルコトナク之ヲ占領スルモノトス故ニ之ニ屬スル工兵ハ必要ニ應シ步兵及砲兵ヲ援助シテ之カ確保ニ必要ナル工事ヲ行ヒ又特ニ砲兵ノ進出ニ必要ナル道路ヲ開設スルヲ要ス其他尙高級指揮官ノ意圖ヲ知リタルトキハ本隊砲兵ノ爲其陣地ト進路トヲ準備セサルヘカラス敵兵我ニ先ンシテ展開ヲ終ヘントスル虞アルトキニ於テハ殊ニ此等ノ處置ヲ必要トス

第四十一 遭遇戦ニ在リテハ敵ニ先チ展開ヲ終ランカ爲各部隊ハ行軍縦隊ヨリ直ニ展開スルヲ有利トス而シテ高級指揮官

ハ全隊ヲ統一シテ戦闘ニ參與セシムルコトニ努力スヘシト雖時機ヲ失セス前衛ノ獲得セル利益ヲ確保シ或ハ之ヲ増大セントスルカ如キ場合ニ在リテハ逐次到着スル本隊ノ各部隊ヲシテ直ニ戦闘ニ加入セシム工兵ハ此際主トシテ各部隊殊ニ砲兵ノ展開竝步兵ノ攻撃前進ヲ容易ナラシムヘキ作業ニ任スヘシ之カ爲工兵指揮官ハ本隊ノ工兵ヲシテ成ルヘク速ニ前方ニ於ケル作業ニ參加セシムルコトヲ勉メサルヘカラス

第四十二 遭遇戦ニ在リテハ工兵ノ各級指揮官ハ特ニ作業ノ計畫、部署及實施ノ敏活ヲ圖リ以テ迅速ナル戦闘經過ニ適應セシムルコトニ注意スヘシ強ヒテ完全ナル作業ヲ行ハント欲シ

却テ時機ヲ失スルコトアルヘカラス

防禦陣地ヲ占領セル敵ニ對スル攻撃

第四十三 防禦陣地ヲ占領セル敵ニ對シテハ攻者ハ通常敵情及地形ヲ偵察シ攻撃ノ時期、方向及方法ヲ選フ爲ニ時間ノ餘裕ヲ有スルヲ以テ豫メ綿密ナル計畫ヲ定メ且十分ナル準備ヲ爲スヲ要ス

敵陣地ノ價值ハ攻撃計畫ニ多大ノ影響ヲ與フルモノニシテ殊ニ堅固ナル陣地ニ在リテハ技術ニ關スル偵察ノ結果ハ又此計畫ノ基礎ヲ爲スモノトス故ニ工兵指揮官ハ高級指揮官ノ意圖ニ基キ百方手段ヲ盡シテ地形竝敵陣地ノ狀態特ニ支撐點ノ構成、障得

物ノ種類、強度及側防設備等ヲ偵察シ以テ高級指揮官ニ有力ナル攻撃計畫ノ資料ヲ提供スルコトニ努力スヘシ戦闘經過中ト雖亦絶エス之ヲ行フヲ要ス

第四十四 高級指揮官ハ命令ヲ下シ先ツ軍隊ヲ開進セシム此際前衛ハ戦闘ヲ惹起スルコトヲ避ケ且敵ノ攻勢移轉ニ抵抗スル用意ヲ爲スモノトス是機動ニ富ム防者ハ攻者ノ先頭現出スルヲ機トシ攻勢ニ轉スルコトアレハナリ故ニ前衛ニ屬スル工兵ハ砲兵ノ迅速ナル陣地進入ニ必要ナル設備ヲ行ヒ又屢々要地ヲ強固ナラシムヘキ工事ヲ行ハサルヘカラス

第四十五 攻撃計畫確定セハ各部隊ハ高級指揮官ノ命令ニ

依リ攻撃準備ノ位置ニ就ク之カ爲工兵ハ各部隊殊ニ砲兵ノ爲ニ成ルヘク遮蔽セル進路ヲ開設スルヲ要ス是砲兵ハ各隊同時ニ且不意ニ射撃ヲ開始スルヲ以テ緊要トスレハナリ

各部隊攻撃準備ノ位置ニ就クヤ工兵ハ成ルヘク速ニ歩兵ト協力シテ細部ノ地形ヲ偵察シ要スレハ所要ノ作業ヲ實施シ若ハ之カ準備ヲ爲シ以テ高級指揮官ノ攻撃前進ニ關スル命令ヲ待ツヘシ

第四十六

攻撃容易ニ進捗セサルカ若ハ晝間力攻ヲ要セサルトキハ夜暗ヲ利用シテ敵ニ接近スルヲ有利トスルコト多シ此場合ニ在リテハ工兵ハ豫メ歩兵及砲兵ト共ニ日没前ニ前地ヲ偵

察シテ此運動ヲ容易ナラシムル爲所要ノ進路ヲ開設シ或ハ之ヲ標示スル等諸種ノ手段ヲ施スヘシ

第四十七

最モ堅固ナル陣地ニ對シテ攻撃ヲ行フ場合ニ於テハ逐次攻撃陣地ヲ構成シテ敵ニ近迫スルノ已ムヲ得サルコトアリ然レトモ之カ爲時日ヲ徒費シ敵ヲシテ益々其防禦ヲ堅クセシムルノ不利アルヲ以テ攻撃陣地ハ成ルヘク敵ニ接近シテ構成スルヲ要ス

第四十八

攻撃陣地ハ必スシモ一連不斷ナルヲ要セス然レトモ各地区ニ於ケル陣地ノ全長ハ其第一線部隊ノ兵力ニ適應スルヲ要ス又其間隙部ハ比隣攻撃陣地ノ火力又ハ後方部隊ノ加入

ニ依リテ防禦シ得サルヘカラス

第四十九

攻撃陣地間竝其後方地區トノ交通ヲ安全ナラシムル爲必要ニ應シ交通壕ヲ掘開ス其方向及幅員ハ敵情、地形及通過軍隊ノ種類ニ依リテ決定スルモノトス

第五十

攻撃陣地及交通壕ノ構成ハ主トシテ歩兵之ニ任スト雖工兵ハ必要ニ應シテ之ヲ指導シ若ハ之ヲ援助ス然レトモ特種ノ設備ハ工兵主トシテ之ヲ行フ又時宜ニ依リ其經始ヲ擔任スルコトアリ

第五十一

攻撃陣地ヲ構成スルニ方リ作業部隊ハ各其作業線ノ前方ニ斥候ヲ出シ敵ノ出撃ヲ受クルトキハ作業線上ニ於テ

自ラ之ヲ抗拒スヘシ但危險ナル側方ニハ特ニ警戒部隊ヲ配置スルヲ要ス

第五十二

攻撃陣地及交通壕ハ通常夜暗ヲ利用シテ構成スルモノニシテ軍隊豫定ノ位置ニ達セハ速ニ之カ構成ニ著手シ拂曉マテニ少クモ晝間之ヲ掘擴シ得ル程度ニ作業ヲ進捗セシメ爾後必要ニ應シ逐次ニ之ヲ強固ナラシムルヲ要ス

第五十三

攻撃陣地若ハ交通壕ノ全線或ハ其大部ヲ同時ニ構成シ得ルトキハ攻撃ノ進捗ヲ齊一旦迅速ナラシムルノ利アリト雖敵ニ接近スルニ從ヒ其實施漸次困難ナルニ至ルヲ以テ此場合ニ於テハ數多ノ小作業部隊ヲ以テ敵ノ不意ニ出テ先ツ個々斷

續セル工事ヲ施シ次テ之ヲ連接スルヲ可トスルコト多シ

第五十四 攻撃陣地若ハ交通壕ヲ構築スルニハ隱密ニ作業シ敵ノ發覺ヲ避クルコトニ注意スヘシ若敵ニ覺知セラレ其射撃ヲ受クルモ作業ヲ中止スルコトナク成シ得ル限り之ヲ續行シテ迅速ニ工事ヲ完成スルコトヲ勉ムヘシ

第五十五 攻撃進捗シテ概ネ一氣ニ突撃ヲ行ヒ得ル距離ニ達セハ突撃ヲ準備スル爲最後ノ攻撃陣地ヲ構成シ且突撃路ヲ開設スルモノトス

第五十六 歩兵最後ノ攻撃陣地ヲ占ムルマテニ砲兵ハ夜暗ヲ利用シテ適宜其陣地ヲ進メ其一部ハ突撃點ヲ最モ有效ニ射撃

スル爲屢々最前線ニ進出スルヲ以テ工兵ハ之ニ掩蔽セル陣地ト進路トヲ與フル爲大ナル工事ヲ行フヲ要スルコトアリ

第五十七 突撃路ヲ開設スル爲工兵將校ハ豫メ適當ナル通過ノ場所及方法ヲ畫定シ所要ノ器具材料ヲ整備シ以テ遺算ナキヲ要ス

第五十八 突撃路ヲ開設スルニハ工兵ハ夜暗、濃霧等ヲ利用シ若ハ我カ掩護射撃ノ下ニ之ヲ實施シ突撃前ニ完了スヘシ然レトモ狀況之ヲ許ササルトキハ突撃ト同時ニ突撃部隊ノ先頭ニ前進シテ作業ヲ強行スヘシ

突撃ニ先チ突撃路ヲ開設シタルトキハ之ヲ監視シ突撃前更ニ障

碍物ノ現狀ヲ偵察シ敵ノ之ヲ補修シ若ハ新設スルコトナキヤラ
確ムルヲ要ス

第五十九 最モ堅固ナル陣地ノ支撐點ニハ往々突撃防止ノ
設備堅固ナルモノアリ其攻撃ハ永久堡壘ノ攻撃ニ進スルモノニ
シテ工兵獨特ノ技能ニ待ツヘキモノ甚大ナリ

第二章 防禦

第六十 防禦ハ動モスレハ全ク受働ノ守勢ニ陥リ我カ動作
ノ自由ヲ失フニ至ルモノトス故ニ苟モ時機ヲ得ハ決然攻勢ニ轉
セサルヘカラス

決戰的勝利ヲ得ントスル防禦ニ在リテハ必ス攻撃ノ動作ヲ併セ
行フモノナリト雖單ニ防支ノミヲ目的トスルトキニ在リテハ全
カヲ盡シテ其陣地ヲ固守スルニ止マルモノトス陣地ノ選定及設
備ハ主トシテ此目的ニ依リテ決定セララル

第六十一 高級指揮官ハ任務ニ基キ彼我ノ狀況及地形ニ稽
ヘ如何ナル防禦ヲ爲スヘキカヲ決定ス

工兵指揮官ハ高級指揮官ノ意圖ニ從ヒ迅速ニ地形ヲ偵察シ陣地
ノ占領特ニ其設備ニ關シ必要ナル資料ヲ提供スヘシ

第六十二 防禦ニ在リテハ工兵ノ擔任スヘキ作業甚多シ故
ニ工兵指揮官ハ周到ナル注意ヲ以テ工兵ノ部署及作業實施ノ順

序ヲ適當ナラシムルコト特ニ緊要ナリ

第六十三 陣地ヲ占領スル部隊ハ特ニ火器ノ效力ヲ十分ニ發揚シ得ルヲ肝要トス而シテ陣地ハ常ニ攻勢ニ轉シ得ル地帯ヲ有スルヲ要ス

陣地ハ兵力ニ適合セサルヘカラス而シテ攻勢移轉ヲ妨ケサル限リ高地、村落、森林等ヲ利用スルヲ可トス然レトモ所在ノ地區地物ニ眩惑シテ一般ノ陣地ニ不利ナル影響ヲ來スコトナキヲ要ス陣地前ノ地形開濶ニシテ遠キ射界ヲ有シ且其内部及背後ノ交通自在ニシテ敵眼ヲ遮蔽シ其翼ヲ堅固ナル支撐點ニ托スルヲ得ハ最モ有利ナリ

陣地ノ各部ハ悉ク所望ノ價值ヲ有スルコト稀ナリ故ニ此缺點ハ適當ナル軍隊ノ配備ト適切ナル工事ノ施設トニ依リテ之ヲ補ハサルヘカラス

第六十四 陣地ヲ占メントスルヤ通常其前方ニ一部隊ヲ出シ以テ我カ陣地占領ヲ掩護セシム敵ニ近キトキハ之カ爲少數ノ歩兵部隊前方ニ進出シテ一時ノ抵抗ヲ爲スコトアリト雖多クノ場合ニ於テハ騎兵ノミ之ニ任シ單ニ敵情ヲ搜索シ成シ得レハ其前進ヲ遲滯セシムルモノトス

第六十五 歩兵ノ戰鬪線ハ通常砲兵陣地ノ前方ニ設ケ敵ノ歩兵ニ對シテ我カ歩砲兵ノ火力ヲ逞クシ同時ニ我カ砲兵ヲ掩護

シ得ル如ク選フヲ要ス而シテ其距離ハ地形ニ依リ差異アリト雖平坦地ニ在リテハ約五百米ヲ適度トス機關銃ノ陣地ハ步兵陣地ノ線上ニ於テ散兵壕内ニ或ハ獨立シテ之ヲ設クルモノトス而シテ其位置ハ遠距離ヨリ敵砲彈ノ危害ヲ被ラサル如ク選フヲ要ス又砲兵及機關銃ノ爲豫備陣地ヲ準備スルノ必要ナルコト屢々之アリ

砲兵及機關銃ハ豫想スル敵ノ攻撃方向ニ對シ十分ニ射撃效力ヲ發揚シ又攻勢移轉ニ際シテハ最モ有效ニ其地帯ヲ射撃シ得サルヘカラス

第六十六

高級指揮官ハ防禦ノ目的ニ應シ地形ト指揮ノ便

否トヲ顧慮シテ陣地ヲ若干ノ地區ニ分チ各地區ニハ之ニ適應スル建制部隊ヲ配置ス而シテ陣地ノ工事ハ通常各地區毎ニ其守備ニ任スル軍隊ノ行フヘキモノニシテ工兵ハ雷ニ之ヲ指導シ又ハ援助スルノミナラス陣地中重要ナル部分殊ニ支撐點及交通路等ノ設備ニ任スルモノトス

敵ニ安全地域ヲ與ヘサル爲高級指揮官ハ前地ヲ地區毎ニ分割シ而シテ各地區前ノ死角ハ比隣地區互ニ之ヲ側防シ得セシムルモノトス

第六十七

陣地ハ逐次ニ抵抗シ得ル如ク數線ニ設クルコトナク唯一個ノ陣地ヲ最モ堅固ニ構成スルヲ要ス

第六十八 決戦ヲ目的トスル陣地ニ在リテハ陣地ノ支撐タルヘキ要地ニ堅固ナル工事ヲ施シ其他ノ地帯ニ於ケル工事ハ通常之ヲ最少限ニ止ムルモノトス然レトモ防支ノミヲ目的トスル陣地ニ在リテハ其各部ヲ堅固ニ構成シ特ニ支撐タルヘキ要地ニハ最モ堅固ナル工事ヲ施スヲ要ス

陣地内部ノ交通路竝通信展望ノ設備ヲ完全ニシ且廣ク射界ヲ清掃シ距離ヲ測定スルコト常ニ緊要ナリ特ニ決戦ヲ企圖スルトキハ總豫備隊ノ攻撃前進ヲ容易ナラシムル爲十分ナル交通設備ヲ行ハサルヘカラス

第六十九 防禦工事ハ連續セル火線ト爲スコトナク數個ノ

集團ニ分チテ設クヘシ陣地大ナルトキハ通常大隊毎ニ集團セシムルヲ可トス而シテ各集團工事ノ間隔及其前地ハ比隣集團ヨリ有效ニ射撃シ得ルヲ要ス若地形其他ノ狀況之ヲ要スルトキハ其中間ニ必要ノ工事ヲ施スコトアリ

一地ヲ固守スル目的ヲ有スル集團工事ニ在リテハ諸方向ニ對シ堅固ニ防禦工事ヲ施シ特ニ奇襲ヲ防遏スル爲其周圍ニ障碍物ヲ設置スヘシ然レトモ其地域狹小ニシテ集團工事ヲ設クルコト能ハサルトキハ閉鎖野堡ヲ構成シテ之ニ代フルモノトス

第七十 工事ハ使用シ得ヘキ時間ヲ豫測シ先ツ之ニ應スル如ク施設シ尙時間ノ餘裕アレハ漸次之ヲ強固ニスヘシ

第七十一 陣地殊ニ防禦工事ハ成ルヘク永ク敵ニ隱匿スルヲ要ス之カ爲各地區ヨリ前地ニ斥候ヲ派遣シ或ハ監視部隊ヲ配置シテ敵ノ搜索ヲ妨害スト雖尙遮蔽工事及假裝工事ヲ施スヲ利アリトス

敵ヲシテ我カ兵力及配備ヲ誤認セシムル爲偽工事ヲ施スコトアリ

第七十二 工事ノ施設適當ナルトキハ著シク軍隊ノ戰鬥力ヲ増大スルモノニシテ之ニ依リ守備ニ充ツヘキ兵力ヲ節約シテ攻勢移轉ニ用フヘキ總豫備隊ヲ強大ニシ以テ勝利ノ基礎ヲ確實ナラシムルニ多大ノ效果ヲ呈スルモノトス

第七十三 凡ソ防禦ニ在リテハ敵ノ企圖ヲ察知スルコト極

メテ必要ナリ敵ノ實施スル作業ニ注意セハ之ニ依リテ其企圖ヲ判斷シ得ルコトアリ

第七十四 防禦戰鬥ノ經過ハ敵ノ前進ニ伴フモノニシテ陣地ノ守兵ハ敵ノ近接ニ從ヒ益々火器ノ效力ヲ十分ニ發揚シ以テ敵ヲ殲滅スルコトヲ勉ムルモノトス此經過中工兵ハ工事ヲ益々堅固ニシ要スレハ之ヲ新設シ又敵ノ爲ニ破壞セラレタル工事ヲ補修スル等絶エス陣地ノ完備ニ勉ムヘシ

第七十五 守兵ノ射撃ニ依リ敵ノ攻撃頓挫シタルトキ或ハ敵ノ過失ヲ發見シタルトキハ高級指揮官ハ直ニ總豫備隊ヲ使用シテ攻勢ニ轉シ又要スレハ同時ニ陣地ニ在ル守兵ノ全部若ハ一

部ニ攻撃前進ヲ爲サシムルモノトス此際陣地ニ殘リシ守兵ハ射撃ノ效力ヲ最高度ニ發揚シ以テ其正面ノ敵ヲシテ他ヲ顧ミルノ邊ナカラシムヘシ

第七十六

戰鬪經過中途ニ乘スヘキ機會ナク敵兵最近距離ニ迫リタルトキハ守兵ハ全火器ヲ使用シテ敵ヲ震駭セシメ全線舉ケテ突出スヘシ敵兵若我カ陣地ニ突入セハ最後マテ奮闘スヘシ

第七十七

夜間ノ防禦ハ一層困難ナリ故ニ防者ハ諸種ノ手段ヲ盡シテ敵ノ近接ヲ警ムヘシ之カ爲工兵ハ前地ヲ照明シ障礙物ヲ監視シ又ハ敵ノ作業ヲ偵知スルコトニ任スヘシ

第七十八

陣地堅固ニシテ防禦頑強ナルトキハ敵ハ遂ニ逐次攻撃陣地ヲ構成シテ我ニ近接スルノ已ムヲ得サルニ至ルモノトス

敵兵攻撃作業ヲ實施セントスルトキハ防者ハ速ニ之ヲ偵知シ歩兵及工兵ヨリ成ル小部隊ノ出撃ニ依リテ之ヲ妨害シ攻撃ノ進捗ヲ遲滞セシムルコトヲ勉ムヘシ之カ爲工兵將校ハ絶エス敵ノ作業ヲ偵察シ速ニ其企圖ヲ看破スルコト緊要ナリ

戰鬪經過中工兵ハ歩兵ト共ニ障礙物ノ保全ニ任スルコト特ニ必要ナリ故ニ敵兵近接シテ之カ破壊ヲ企ツルトキハ極力之ヲ妨害シ要スレハ之ヲ補修シ若ハ新設シ以テ敵ノ突入ヲ防遏スヘシ

第七十九 突撃防止ノ設備堅固ナル支撐點ノ防禦ハ永久堡壘ノ防禦ニ準スルモノニシテ工兵ハ更ニ重大ナル任務ヲ負ハサルヘカラス

第四章 追撃及退却

第八十 戦闘勝利ヲ得ハ直ニ猛烈果敢ノ追撃ヲ決行シテ敵ヲ殲滅シ以テ其效果ヲ完ウスルコト最モ緊要ナリ之カ爲敵陣ニ突入セシ各部隊ハ猛烈ナル追撃射撃ヲ行ヒ敵兵我カ有效射撃界ヲ脱セントスルヤ直ニ之ヲ急追スヘシ而シテ高級指揮官ハ比較的集結シ且進出ニ便ナル部隊ヲ以テ速ニ追撃隊ヲ編成シテ追撃

ニ任セシメ既ニ追撃中ニ在ル各部隊ヲシテ秩序ヲ整ヘ更ニ前進スルノ準備ヲ爲サシムルモノトス此際追撃隊ニ屬スル工兵ハ其先頭ニ近ク行進シテ敵ノ設置セル障礙ヲ排除シ追撃隊殊ニ砲兵ノ行動ヲ自由ナラシムルヲ要ス

第八十一 追撃間ニ於ケル障礙ノ排除ハ最モ迅速ナラサルヘカラス若其作業遲緩スルトキハ敵ヲシテ我カ急追ヲ免レシムルニ至ル故ニ追撃隊ニ屬シタル工兵指揮官ハ迅速ニ地形ヲ判斷シ敵ノ退却路上ニ於テ障礙ヲ設置スヘキ地點及其方法ヲ考慮シ要スレハ豫メ所要ノ器材ヲ準備スヘシ又遠ク將校ヲ先遣シテ敵ノ設置セシ障礙竝其排除ノ方法若ハ有利ナル迂回路ノ有無ヲ偵

察セシムヘシ

第八十二 戦闘後ハ勝者ノ疲勞モ亦大ナリト雖敗者ハ體力及氣力共ニ一層困憊シ其疲勞ハ殆ト極度ニ達スルモノナルカ故ニ勝者ハ一意追撃ヲ續行スル爲各指揮官ハ部下ニ對シ過劇ノ動作ヲ要求スルコトヲ避クヘカラス

第八十三 退却戦闘ヲ指揮スルノ要ハ速ニ敵ト離脱スルニ在リ之カ爲高級指揮官ハ成ルヘク數縱隊トナリ併進スヘキ處置ヲ定メ且行進目標、收容部隊及收容陣地ヲ示シテ退却ヲ實行スルモノトス工兵ハ此際收容陣地ヲ構成シ又ハ障礙ヲ設置シテ敵ノ追撃ヲ遲滯セシメ且要スレハ退路ヲ補修シテ軍隊ノ運動ヲ容

易ナラシムルコトニ任ス

第八十四 高級指揮官退却ニ決スルトキハ工兵指揮官ハ其意圖ニ基キ成ルヘク速ニ多數ノ將校ヲ派遣シテ退却目標ニ通スル數多ノ平行路ヲ偵察セシメ必要ニ應シ所要ノ工兵ヲ先遣シテ道路ノ補修ヲ行ハシムヘシ

第八十五 高級指揮官退却ヲ部署スルヤ通常若干ノ工兵ハ收容隊ニ其他ハ必要ニ應シ各縱隊ニ分屬ス又工兵指揮官ハ此時期若ハ其以前ニ於テ高級指揮官ノ意圖ヲ受ケ收容陣地構成ニ關スル偵察ヲ行フコトアリ

第八十六 收容陣地ハ一般ノ狀況ヲ顧慮シ退却スル軍隊ヲ

シテ其掩護ノ下ニ集合シ且出發シ得セシムル如ク選定シ其砲兵陣地ハ成ルヘク退却路ノ側方若ハ其附近ノ高地上ニ選定スルコトヲ求ム工兵ハ特ニ砲兵ヲシテ容易ニ陣地ニ進入シ且迅速ニ撤退シ得ル如ク道路ヲ開修シ成シ得レハ敵ノ近迫ヲ困難ナラシムヘキ工事ヲ行フヘシ

第八十七

收容部隊直ニ後衛トナルコトヲ得ハ大ニ有利ナリト雖狀況之ヲ許ササルトキハ新ニ後衛ヲ設クルモノトス後衛ニ屬スル工兵ハ道路、橋梁等ヲ破壊若ハ阻絶シテ敵ノ前進ヲ遲滯セシムルニ任ス若其場所及方法宜シキヲ得ルトキハ大ナル效果ヲ奏スルモノトス尙若干ノ騎兵若ハ歩兵ヲ以テ敵ノ修理

ヲ妨害セハ一層其效果ヲ大ナラシム故ニ敵ノ追撃急激ヲ極ムルモ工兵ハ毫モ損害ヲ顧ミルコトナク泰然トシテ確實ニ作業ヲ實施スヘシ又後衛止マリテ敵ノ前進ヲ拒止セントスルトキハ工事ノ施設ヲ要スルコト屢々之アリ

第八十八

退却スル軍隊新ニ陣地ノ占領ヲ豫期スルトキハ工兵指揮官ハ高級指揮官ノ意圖ニ從ヒ退却中各縦隊ニ分屬セル部下各隊ニ連絡シテ陣地到着後速ニ之ヲ掌握シ得ル準備ヲ爲シアルヘシ

此場合ニ於テハ工兵ノ大部ハ陣地ヲ設備スル爲ニ屢々先遣セラレルコトアリ

第五章 持久戦

第八十九 持久戦ハ決戦ヲ避ケ時間ノ餘裕ヲ得ルヲ目的トス

掩護ノ任務ヲ有スル部隊戦闘ヲ交ヘサルヘカラサルトキハ通常持久戦ヲ行フモノトス又正面ノ部隊ヲシテ包围或ハ迂回等ニ任スル部隊ノ好機ニ出ツルヲ待タシメンカ爲持久戦ヲ爲サシムルコトアリ

持久戦ニ於ケル工事ノ施設ハ防禦ニ於ケルト概ネ異ナルコトナシト雖爾後防禦スルカ若ハ攻撃ニ轉スルカヲ顧慮シテ之ヲ實施スルコト必要ナリ

第九十 持久戦ニ在リテハ何レノ場合ニ在リテモ第一線ノ各部隊ハ通常兵力ニ比シ廣キ正面ニ展開スルモノトス故ニ工兵ハ特ニ此戦闘ニ在リテハ大ナル偽工事及遮蔽工事ヲ行フノ必要ナルコト多シ

第六章 河川ノ戦闘

第九十一 河川ハ攻防兩者ヲ遮斷シ其運動及搜索ヲ困難ナラシム故ニ能ク此特性ヲ利用スルトキハ攻者ハ敵ノ意表ニ出テ或ハ之ヲ欺騙シ若ハ其妨害ヲ制壓シ之ヲ渡過シテ攻撃ヲ實行シ

防者ハ其目的ニ依リ敵ノ半渡ニ乘シテ攻勢ニ轉シ或ハ其渡河ヲ拒止スルヲ得ヘシ故ニ工兵ハ特ニ攻撃ニ於テ渡河設備ノ爲重大ナル任務ヲ負ハサルヘカラス

第九十二 攻撃ニ在リテハ工兵指揮官ハ高級指揮官ノ意圖ニ基キ先ツ架橋點竝掩護隊ノ渡河點、架橋縱列ノ開進地要スレハ應用材料ノ有無ヲ偵察スヘシ之カ爲所要ノ工兵將校ヲ使用スヘシ但架橋縱列ノ開進地ハ架橋縱列長ヲシテ偵察セシムルヲ可トス

架橋點ハ通常作戰上重要ナル地點ニ向ヒ前進スルニ便利ニシテ適當ナル掩護陣地ヲ有シ敵眼敵彈ニ對シテ掩蔽シ兩岸ノ地區ハ

交通自由ニシテ軍隊ノ集合及架橋縱列ノ開進ニ適當ナル位置ヲ有シ又河川ノ景況ハ使用シ得ヘキ架橋材料ニ適應シ兩岸ニ於ケル工事ハ簡易ニシテ且適當ナル材料置場ヲ有シ河岸ハ舟ノ泛水ニ便ナルヲ要ス

掩護隊ノ渡河點ハ成ルヘク架橋點ニ近ク且架橋作業ヲ妨害セサル地域ニ選定シ乗船上陸ニ便ナル數多ノ發著點ヲ有スルヲ要ス

架橋縱列ノ開進地ハ架橋點ニ近ク所要ノ幅員ヲ有シ地面成ルヘク平坦堅硬ニシテ車輛ノ運動、材料ノ卸下整頓共ニ容易ナル地點ニ選フヘシ

應用材料ヲ徵收スルニハ成ルヘク架橋點ノ附近殊ニ上流ニシテ材料ノ運搬ニ便利ナル所ヨリスルヲ可トス

第九十三 敵前ノ渡河ハ極メテ困難ナリ故ニ敵ノ不意ニ出テ若ハ陽動ニ依リ敵ヲ欺キテ速ニ渡河スルヲ要ス從ヒテ偵察及渡河ニ關スル諸動作ヲ敵ニ秘匿スルコト最モ緊要ナリ之カ爲渡河ノ準備ハ敵ノ視聽ヲ避ケ得ル地點ニ於テ成ルヘク架橋著手前ニ之ヲ完了スヘシ而シテ架橋ハ多クハ夜間ニ之ヲ實施シ拂曉前ニ完了セサルヘカラス

第九十四 敵前ノ渡河ハ最後マテ其發覺ヲ免ルルコト殆ト難ク半途ヨリ渡河ヲ強行セサルヘカラサルニ至ルコト屢々之ア

リ故ニ攻者ハ最初ヨリ此場合ニ處スル爲豫メ歩砲兵ヲ掩蔽シテ後岸ノ陣地ニ就カシムル等諸種ノ手段ヲ盡シ工兵モ亦必要ノ準備ヲ整ヘ敵ノ妨害ヲ受クルモ自若トシテ作業ヲ續行スヘシ

第九十五 架橋ヲ行フニハ通常先ツ歩兵ノ一部隊要スレハ之ニ若干ノ騎兵及砲兵ヲ加ヘ前岸ノ要地ヲ占メテ架橋掩護ニ任セシムルモノトス之カ爲工兵ハ豫メ成ルヘク多數ノ舟筏ヲ準備シ且其渡河ニ任ズヘシ

架橋中ト雖工兵ハ架橋ヲ遲滯セシメサル限り成ルヘク多クノ材料ヲ使用シ掩護部隊ニ續キテ歩兵部隊ヲ前岸ニ移ラシムルコトヲ勉ムヘシ

第九十六 掩護隊ノ渡河ハ狀況特ニ地形ヲ顧慮シテ其時期ヲ決定シ過早ニ之ヲ行ヒ敵ニ我カ企圖ヲ察知セラレサルコト緊要ナリ

掩護隊ヲ渡河セシムルニハ最初ノ第一回ニ於テ成ルヘク多クノ部隊ヲ同時ニ敵岸ニ上陸セシムルヲ要ス而シテ其部隊ハ建制ヲ破ラサルコトニ注意スヘシ

第九十七 陽渡河點ハ敵ヲシテ眞渡河點ト誤認セシメ得ル地點ニ選定セサルヘカラス而シテ架橋ノ諸作業モ亦眞渡河點ニ於ケルモノト判別スルコト能ハサル如ク實施スルヲ要ス

第九十八 敵前ニ於ケル架橋ニハ主トシテ縦列材料ヲ使用

スルモノトス然レトモ縦列材料ヲシテ爾後ノ需要ニ應セシメンカ爲成ルヘク速ニ應用材料ヲ以テ之ヲ架換フルコト緊要ナリ
橋梁ノ撤收ヲ行フハ常ニ高級指揮官ノ命令ニ依ルモノトス

第九十九 河川防禦ノ要訣ハ敵ノ半渡ニ乘シ攻勢ニ轉スルニ在リ之カ爲豫想スル各渡河點ニ若干ノ警戒部隊ヲ配置シ主力ハ之ヲ集結シテ敵兵縱ヒ何レノ方向ヨリ來ルモ直ニ之ニ應シ得ヘキ地ニ位置セシムルモノトス而シテ敵ノ陽動ニ欺カレサルコト緊要ナリ故ニ通常騎兵ハ前岸ニ進出シテ敵情ヲ搜索スト雖特ニ渡河ノ眞偽ヲ判斷スルニハ必要ナル渡河點ニ工兵將校ヲ派遣シテ敵ノ企圖ヲ偵察セシムルヲ可トス

第百 防禦ニ在リテハ工兵ハ先ツ附近ノ渡河材料ヲ收メテ之ヲ後岸ニ繫留シ敵ノ利用スヘキ橋梁ハ之ヲ破壊スルカ若ハ其準備ヲ行ヒ徒涉場ヲ偵察シ要スレハ敵ノ渡河ヲ困難ナラシムル爲所要ノ工事ヲ施スヘシ又特ニ攻勢移轉ニ際シ主力ノ進出ニ必要ナル設備竝通信展望ノ設備ヲ完ウスヘシ

第百一 持久ノ目的ヲ有スル防禦ニ在リテハ直接河川ニ沿ヒテ兵力ヲ配置スルモノトス此場合ニ於テ工兵ハ特ニ障地ヲ構成シ且敵ノ企圖スル一切ノ渡河手段ヲ妨害スルコトニ任スヘシ

第七章 山地及森林、住民地ノ戰闘

第百二 山地ハ一般ニ展開地域狹ク交通不便ニシテ運動容易ナラス從ヒテ各級指揮官ハ獨斷ヲ以テ動作スルヲ要スルコト多シ

山地ノ戰闘ニ於テハ工兵ハ其一部ヲ各部隊ニ分屬スルヲ必要トスルコト屢々之アリ

第百三 山地ニ在リテハ攻防共ニ敵ヲ瞰制スヘキ位置ヲ占メ砲兵特ニ山砲兵及機關銃ヲ利用シテ道路、谷及斜面ヲ掃射シ且敵ノ動作ヲ觀察スルニ容易ナラシムルコトヲ企圖ス之カ爲工

兵ハ交通ノ設備ヲ完全ナラシムルコトニ任スヘシ

第四百四

山地ノ戦闘ニ於テ攻者ハ敵方ニ通スル道路、谷及稜線ヲ利用シテ前進シ以テ敵ヲ包圍シ若ハ遠ク迂回シテ敵ノ背後ヲ脅威シ其退路ヲ遮斷スルヲ必要トス而シテ攻撃ノ爲ニハ各部隊ハ死角ヲ利用シテ敵陣地ノ支撐點及緊要ナル鞍部ヲ奪取スルコトヲ勉ム故ニ工兵ハ攻撃ニ在リテハ主トシテ道路ノ開設ニ努力セサルヘカラス攻撃效ヲ奏シ砲兵若ハ機關銃ノ一部追撃射撃ニ加ハラントスルトキニ於テハ特ニ迅速ニ之ニ要スル設備ヲ行フコト緊要ナリ

第四百五

山地ノ防禦ニ於テハ敵方ニ通スル諸道路ヲ堅固ニ

守備スルヲ要ス若交通便利ナルトキハ各地區ニ備フヘキ兵力ヲ減少シ大部ヲ總豫備隊ト爲シ進出容易ナル地ニ備ヘ又交通不便ナルトキハ總豫備隊ヲ數地ニ分置スルヲ可トス而シテ第一線部隊ハ緊要ナル鞍部ヲ占領シ山頂ヨリ谷及斜面ヲ瞰射シ得ル如ク軍隊ヲ配備シ特ニ死角ヲ側防セサルヘカラス故ニ工兵ハ最モ能ク死角ヲ側防シ得ヘキ設備ヲ爲シ特ニ山頂及山腹ニ於ケル陣地ニハ敵彈ノ集中ニ對シ掩蔽ノ設備ヲ行ヒ又總豫備隊ノ進出ニ必要ナル交通路ヲ開設スヘシ

第四百六

森林及住民地戰場ニ點在スルトキハ屢々戰鬥ノ焦點トナルモノニシテ防者ハ之ヲ占領シテ支撐點ヲ成形シ攻者ハ

之ヲ利用シテ據點ト爲スコトヲ得ヘシ然レトモ此等ノ局地ハ一般ニ運動及通視不便ニシテ指揮困難ナルヲ以テ工兵ハ多大ノ交通設備ヲ行ハサルヘカラス

第二百七

森林殊ニ住民地ニ據ル敵ハ屢々頑強ニ抵抗スルコトアリ故ニ之ヲ攻撃スルニ方リ工兵ハ障碍物及圍壁等ヲ破壊シテ突撃ノ進路ヲ開キ要スレハ手榴彈ヲ投シ歩兵ト共ニ敵ヲ驅逐スヘシ敵兵退却セハ直ニ之ニ尾シテ邁進シ當路ノ障碍ヲ除去シ速ニ其前端ニ進出スルコトヲ勉ムヘシ此際尙其内部ニ於テ敵ノ據守スル家屋アルトキハ工兵ハ其屋壁ヲ破壊シ敵ヲ驅逐スヘシ又後方部隊ノ爲ニ時機ヲ失セス所要ノ道標ヲ設備スルヲ要ス

第二百八

森林ヲ占領スルニハ敵ニ識別セラレ易キ林縁ヲ避ケ樹木ノ爲射撃ヲ妨害セラレサルヲ度トシ林縁ノ後方ニ火線ヲ選フヲ可トス疎散ナル森林ニ於テハ殊ニ然リ若濃密ナルトキハ火線ヲ前方ニ設ケ森林ハ唯後方部隊ヲ隱蔽スルニ用フルヲ利トスルコトアリ工兵ハ道路ヲ開設シ道標ヲ設置シ不用ノ道路ヲ閉塞シ且林縁ニ障碍物ヲ構設スル等ニ任スヘシ

第二百九

住民地ノ家屋及圍壁ノ構造堅固ナルトキハ周縁ヲ以テ戰鬥ノ主線ト爲スヲ得ヘシト雖木造家屋ヨリ成ルモノハ敵彈ノ爲火災ニ罹リ易キヲ以テ單ニ後方部隊ヲ隱蔽スルニ止メ火線ハ寧ロ其前方ニ設クルヲ可トス若其周縁ヲ戰鬥線トスルトキ

ハ圍壁及家屋ノ景況ニ應シ各部隊ノ守備區域ヲ定メテ守備セシメ縦ヒ敵兵其一區域ニ進入スルモ他ニ波及セサル如ク設備スルヲ要ス又其内部ニ於テモ適當ノ位置ニ在ル堅固ナル家屋ヲ選定シテ之ヲ占領シ回復攻撃ヲ容易ナラシムルコト緊要ナリ
工兵ハ圍壁或ハ家屋ニ射撃ノ設備ヲ施シ内部ニハ交通連絡ニ必要ナル工事ヲ爲スヘシ軍隊ヲ分チテ家屋内ニ入ラシメ或ハ豫備隊ヲ住民地内ニ位置セシムルトキハ殊ニ然リ不用ノ道路ヲ閉塞スルコト亦必要ナリ

第一百十 住民地ノ防禦ニ於テ敵兵圍壁ニ肉薄セハ工兵ハ手榴彈ヲ投シ歩兵ト協同シテ敵ヲ擊退スヘシ

第八章 永久堡壘ノ攻撃及防禦

要領

第一百十一 永久堡壘ハ通常突撃防止ノ設備完全ナルヲ以テ攻者ハ對壕竝坑道ニ依リ地上及地中ヨリ敵ニ近迫シ其設備ヲ破壊シテ突撃ヲ實行シ防者モ亦同一ノ手段ニ依リテ敵ノ近迫ヲ防止シ突撃防止ノ設備ヲ保全スルコトヲ圖ルモノトス

第一百十二 永久堡壘ノ攻防ニ於ケル對壕、坑道竝突撃作業ハ主トシテ工兵獨特ノ技術ニ待ツモノニシテ慘烈ヲ極ムル狀況ノ下ニ長時日ニ亙リ之ヲ續行スルヲ常トス

攻 撃

第一百十三 永久堡壘ノ攻撃ニ在リテハ通常綿密ナル計畫ニ基キ逐次攻撃陣地ヲ構成シテ前進シ遂ニ對壕及坑道ニ依リ地上及地中ヨリ前進シ斜堤頂ニ近接シテ突撃陣地ヲ構成シ之ヲ據點トシテ突撃防止ノ設備ヲ破壊シ突撃ヲ遂行スルモノトス然レトモ堡壘ノ突撃防止ノ設備完全ナラサルカ又ハ守兵ノ抵抗甚シク頑強ナラス我カ砲火ノ效力十分ナルトキハ堡壘ノ前方ニ於テ一氣ニ突撃ヲ行ヒ得ヘキ距離ニ突撃陣地ヲ構成シ之ヨリ直ニ突撃ヲ敢行シ速ニ堡壘ヲ奪略スルコトヲ勉ムヘシ

第一百十四

攻撃作業漸ク進歩シテ著シク敵壘ニ接近スルニ

至レハ夜間ト雖暴露シテ作業ヲ實施スルコト至難ナルニ至ルヲ以テ對壕作業ニ依リテ攻路及攻撃陣地ヲ構成セサルヘカラス之カ爲工兵指揮官ハ上級指揮官ノ意圖ニ基キ敵情及地形ヲ顧慮シ到著地點及開口スヘキ地域竝攻路ノ數ヲ決定シ對壕構築ニ任スル將校ハ之ニ基キ攻路ノ方向、種類及開口ノ位置ヲ決定スヘシ

第一百十五 對壕ヲ掘進スルニハ成シ得ル限り迅速ニ目標ニ到著スルコトヲ勉ムヘシ之カ爲絶エス敵情ヲ偵察シテ時機ニ適合スル如ク對壕ノ方向及種類ヲ變換シ又機會アル毎ニ奮然暴露シテ作業ヲ敢行シ若ハ夜暗、濃霧等ニ際シ敵ノ不意ニ乘シテ一躍前進シ迅速ニ成ルヘク多クノ掩體ヲ成形シ之ヲ連絡シテ攻路

及攻撃陣地ヲ構成シ以テ攻撃ノ迅速ナル進捗ヲ圖ラサルヘカラ
ス

第一百十六 敵ニ坑道ノ設備アルコトヲ豫知シ若ハ之ヲ察知
スルカ或ハ我カ對壕作業之ニ依リテ破壊セラレ其掘進ヲ中止ス
ルノ已ムヲ得サルトキハ其爆發圏外ニ攻撃陣地ヲ設ケ爾後坑道
ニ依リ逐次地中ノ敵ヲ驅逐シ地上及地中相待ツテ前進ヲ行フヘ
シ

第一百十七 坑道ヲ開設センニハ工兵指揮官ハ防禦坑道ノ位
置及方向、種類等ヲ判斷シ而シテ破壊セントスル坑道ヲ目標ト
シ各目標ニ對シテ一坑道系ヲ定メ坑道發起壕ノ位置及開設スヘ

キ坑道ノ數ヲ定ムヘシ

第一百十八 坑道發起壕ハ各坑道發起ノ場所ニシテ通常攻撃
陣地ノ前方ニ於テ各坑道系毎ニ成ルヘク目標ヲ包圍スル如ク之
ヲ設クルモノトス其位置ハ後方陣地ヨリ射撃ニ依リテ防護セラ
レ且防禦坑道ノ爆發ヨリ生スル危害ヲ被ラサル如ク定ルモノ
トス然レトモ時トシテハ攻撃陣地ヨリ坑道ヲ發起スルトアリ
第一百十九 坑道系ノ指揮官ハ我カ坑道ノ側面ヲ防禦坑道ニ
暴露セサル如ク齊頭ニ掘進スヘシ之カ爲ニハ地中及地上ニ現出
スル細微ノ現象ト雖看過スルコトナク絶エス之ニ注意シテ敵情
ヲ候察シ且我カ一切ノ行動ヲ秘匿シ敵ヲシテ候察ノ材料ヲ得セ

シメサルヲ要ス又諸種ノ手段ヲ盡シ敵ヲ欺騙シテ其判斷ヲ誤ラシムルヲ利アリトス

第二百一十 坑道系ノ指揮官ハ時機ヲ得ハ對壕ニ依リテ前進シ垂坑道ヲ掘開シテ敵ノ坑道ヲ中斷スルコトヲ圖ルヘシ

第二百一十一 各坑道進ミテ敵ノ坑道ヲ爆破スヘキ時機ニ達セハ直ニ其坑道頭ニ藥室ヲ設ケ之ヲ一齊ニ爆發シ其噴火孔ヲ占領スヘシ

爆發ヲ行フノ時機ハ夜暗ニ乘シテ噴火孔ヲ占領センカ爲通常日沒時ヲ選フヲ適當トス然レトモ此時ノ來ルヲ待チ却テ敵ニ先ンセラルルハ大ナル損失トス寧ロ早キニ失スルモ遲キニ過クヘカ

ラス

噴火孔ノ占領ニ任スル部隊ハ爆發前諸準備ヲ整ヘ爆發ノ危害ヲ被ラサル如ク最近ノ陣地ニ位置シ爆發ノ實施後直ニ噴火孔ニ向ヒ前進シ歩兵ハ其孔唇ニ據リテ敵ノ出撃ヲ防キ工兵ハ之ニ射撃設備ヲ施シ後方ノ交通路ヲ掘開スヘシ

第二百一十一 噴火孔ヲ占領セハ之ヲ連絡シテ攻撃陣地ヲ設ケ且其孔底ヨリ坑道ヲ掘開スヘシ

第二百一十二 爆發後敵ノ坑道ヲ發見シ之ニ侵入スルヲ得ハ大ニ利アリ而シテ一旦之ニ侵入セハ極力敵ノ妨害ヲ排除シ成ルヘク遠ク之ヲ占領スルコトヲ勉ムヘシ

第二百二十四 敵ノ爆發ニ依リテ生スル噴火孔モ亦機ヲ逸セ
ス之ヲ占領スルヲ要ス

第二百二十五 地上及地中ノ攻撃進捗シテ斜堤頂前ニ達セハ
噴火孔ヲ設ケ之ヲ連絡シ且擴張シテ突撃陣地ヲ構成ス此陣地ハ
堡壘ノ正面及側面ヲ包圍シ數方面ヨリ突撃縱隊ヲ前進セシメ得
ル如クスルヲ要ス

第二百二十六 突撃陣地ヲ構成セハ更ニ坑道ヲ進メテ外岸壁
及側防設備ヲ爆破シ壕ノ通路ヲ開設スヘシ此際速ニ其近傍ニ殘
存セル外岸坑道及側防穹窿ヲ占領スル敵ヲ驅逐スルコトヲ勉ム
ヘシ

第二百二十七 狀況若之ヲ許セハ地上ヲ躍進シテ斜堤頂附近
ヲ占領シ此位置ニ掩體ヲ設ケ垂坑道ヲ掘開シテ爆破ヲ行フヘシ

第二百二十八 外岸壁ヲ顛覆シ側防設備ヲ破壊セハ次テ壕内
ニ在ル障碍物竝内岸壁ヲ破壊スヘシ而シテ堡壘ノ守兵尙極メテ
頑強ニ抵抗シ且比隣堡壘ヨリ猛烈ナル射撃ヲ集注スル爲一舉シ
テ突撃ヲ敢行スルコトヲ豫期シ得サルトキハ已ムヲ得ス更ニ胸
墻下ニ坑道ヲ掘開シテ之ヲ顛覆シ又成シ得レハ對壕ニ依リテ逐
次内岸斜面及外斜面ヲ占領シツツ前進スヘシ

第二百二十九 突撃路ノ開設ヲ終レハ突撃ヲ實行ス突撃ハ我
カ砲兵ノ準備射撃ヲ利用センカ爲通常晝間ニ於テ之ヲ行フモノ

トス而シテ夜暗ヲ利用シテ占領工事ヲ行ハンカ爲ニハ日没前ニ於テ突撃スルヲ利アリトス

第二百二十 突撃部隊突撃陣地ニ就クニハ其行動ヲ慎重ニシ敵ニ察知セラレサルコトニ注意スヘシ若敵彈ノ損害ヲ避クルコト能ハサルトキハ突撃少時前ニ陣地ニ就クヲ要ス

第二百二十一 突撃ノ時機ニ達セハ歩兵ハ最前方ノ陣地ヨリ射撃ヲ以テ胸牆ニ據ル敵ヲ制壓シ突撃部隊ハ突撃路ノ數ニ應シ數縱隊トナリ堡壘ノ正面、側面竝咽喉部ニ向ヒ同時ニ突撃スルモノトス此際工兵ハ各縱隊ニ先ンシテ前進シ敵ノ急設セル障礙物ヲ完全ニ破壊シテ其突進ヲ容易ナラシムヘシ又其一部隊ハ突

撃奏效後ノ占領工事ヲ行ヒ或ハ後方交通路ヲ開設スル爲突撃部隊ノ直後ニ跟隨スヘシ

第二百二十二 突撃ニ方リ突撃器材ニ依リテ外壕ヲ超越セントスルトキハ其破壊ノ景況ニ應シ遺漏ナク之ヲ準備スルヲ要ス又歩兵ヲシテ之ヲ使用セシメントスルトキハ突撃前工兵ノ指導ニ依リ十分ニ豫習セシムルコト緊要ナリ

第二百二十三 突撃其效ヲ奏シ突撃部隊既ニ胸牆ヲ占領スルニ至ルモ頑強ナル敵ハ尙堡壘ノ内部若ハ咽喉部附近ニ據リテ抵抗ヲ持續スルヲ以テ工兵ハ歩兵ト共ニ銃器又ハ手榴彈ニ依リテ力戰シ敵ヲ堡壘外ニ撃退スヘシ而シテ其他ノ工兵ハ堡壘ノ胸牆

ヲ改修シテ之ヲ確保スルニ便ナラシムヘシ

第二百二十四 攻撃效ヲ奏シ敵ヲ全ク堡壘外ニ驅逐シタルトキハ工兵ハ其占領ヲ確實ナラシムル爲直ニ堡壘殊ニ咽喉部ヲ改修シ要スレハ障碍物ヲ急設若ハ補修シ敵ノ準備セル地雷ヲ搜索シテ其導火線ヲ遮斷スヘシ又速ニ後方交通路ヲ開設スルヲ要ス

防禦

第二百二十五 永久堡壘ノ防禦ニ在リテハ敵ノ實施スル作業ヲ候察シテ其企圖ヲ判斷シ極力其近迫及突撃路開設ノ動作ヲ防止スルヲ要ス

第二百二十六

敵兵攻撃作業ヲ開始セハ守兵ハ屢々小出撃ヲ行ヒ敵ノ作業ヲ妨害スヘシ通常敵ノ作業ニ著手セントスル時機ニ乘スルヲ最モ利アリトス而シテ出撃ヲ行フニ方リテハ敵ヲシテ我ニ追尾シテ陣地ニ侵入セシメサルコトニ注意スヘシ

第二百二十七

敵兵愈々近接シ對壕ニ依リテ前進ヲ企圖スルニ至レハ工兵ハ通常對壕ニ依リ敵ヲ側射又ハ斜射シ得ル地點ニ前進シテ陣地ヲ構成シ射撃ヲ以テ之ヲ妨害シ又ハ歩兵ト協同シテ敵ノ對壕頭ニ向ヒテ突出シ爆藥、手榴彈ヲ以テ敵ヲ驅逐シ成ルヘク其作業ヲ妨害スルコトヲ勉ムヘシ

第二百二十八

敵ハ屢々夜暗、濃霧等若ハ猛烈ナル砲火ヲ利用

シ一躍前進シテ掩體ヲ構設センコトヲ勉ム故ニ工兵ハ絶エス注意シテ之カ妨害ノ機ヲ失ハサルヲ要ス

第二百二十九 防者ハ其堡壘敵ノ攻撃方面ニ當ルヲ察知セシトキヨリ直ニ既設ノ坑道ヲ補備スルヲ要ス之カ爲各坑道系ノ指揮官ハ豫定ノ計畫ニ基キ若ハ必要ニ應シ新ニ計畫ヲ定メ速ニ其實施ニ著手スヘシ

防禦坑道ハ通氣ノ許ス限り之ヲ延伸シ以テ敵ヲシテ遠距離ヨリ坑道ヲ掘開セサルヲ得サラシメ又其深サハ敵ノ坑道ヲ下方ヨリ爆破シ得ル如ク之ヲ定ムルヲ要ス

第四百十 敵ヲ欺騙シ又ハ疑懼ノ念ヲ懷カシムル爲坑道ヲ

設備セサル地域殊ニ我カ坑道ノ前方ニ豫メ獨立ノ藥室ヲ設クルヲ利アリトス

第四百十一 敵ノ對壕作業進捗シテ既ニ我カ坑道ノ爆發圈内ニ達セハ之ヲ爆發シ敵ヲシテ坑道ニ依リ前進スルノ已ムヲ得サルニ至ラシムルヲ要ス

第四百十二 敵兵坑道作業ヲ開始セハ我カ坑道ニ依リテ敵ノ前進ヲ防止スルノミナラス地上ニ於テモ極力其作業ノ進捗ヲ妨害スヘシ之カ爲工兵ハ潜行シ若ハ歩兵ト共ニ出撃シテ其開口部ヲ破壊スルコトヲ勉ムルヲ要ス

第四百十三 敵ノ坑道進ミテ我カ坑道ノ近傍ニ達セハ成シ

得ル限リ敵ノ坑道ヲ側面ヨリ爆破シ得ル如ク適當ノ方向ニ穿孔若ハ枝坑道ヲ掘進シテ之ヲ爆破スヘシ此爆發ハ早キニ失スルコトナク又敵ノ坑道ヲ破壊シ得ルヲ限度トスヘシ

第四百四十四 敵ノ爆發ニ依リ噴火孔ヲ生セシトキハ工兵ハ歩兵ト共ニ決意突進シ爆藥、手榴彈ヲ投入スル等諸種ノ手段ヲ盡シテ敵ノ占領ヲ妨害スヘシ又地中ヨリ噴火孔ノ底部ヲ爆破スルコトヲ勉ムヘシ

第四百四十五 敵ハ坑道ヲ掘進スルコトナク躍進シテ斜堤頂附近ニ達シ之ヲ發起點トシテ坑道ヲ開設スルコトアリ故ニ防者ハ嚴ニ敵ノ行動ヲ監視シ極力其動作ヲ妨害スヘシ

第四百四十六 敵若爆發ノ後我カ坑道内ニ侵入セシトキハ極力之ヲ驅逐スルコトヲ勉ムヘシ狀況之ヲ許ササルトキハ阻絶ヲ設ケ歩々其前進ヲ防止スルコトヲ勉ムヘシ而シテ坑道ノ維持途ニ不可能ナルニ至レハ小爆破ヲ行ヒテ悉ク之ヲ破壊シ敵ヲシテ之ヲ利用セシメサルヲ要ス

第四百四十七 敵兵逐次地上及地中ヲ占領シツツ前進シ遂ニ斜堤頂附近ニ陣地ヲ構成セントスルトキハ工兵ハ手榴彈ヲ投シテ之ヲ妨害シ若ハ地中ヨリ穿孔ニ依リテ之ヲ爆破スヘシ

第四百四十八 側防設備又ハ外岸壁既ニ爆破セラルルモ防者ハ尙至近ノ窺室ニ蹈止マリ頑強ニ敵ノ侵入ヲ防止シ成シ得ル限

リ側防設備ヲ補修シ又新ニ壕内若ハ堡壘外ニ側防ノ設備ヲ急造スルヲ要ス又成シ得レハ外岸ノ爆破ニ依リテ埋填セラレタル壕底ノ堆土ヲ排除スヘシ

第四百四十九 側防設備竝外壕全ク敵ノ領有ニ歸シタル後ニ至リ敵兵更ニ内岸ニ坑道ヲ掘開スルニ方リテハ工兵ハ地上及地中ヨリ之ヲ妨害シ又逐次ノ防禦ニ便ナル如ク堡壘ノ内部及咽喉部附近ニ新ニ防禦工事ヲ施スヘシ

第四百五十 堡壘ノ胸牆既ニ爆破セラレ敵兵胸牆ヲ攀登シテ突進シ來ルトキハ工兵ハ歩兵ニ協力シ手榴彈又ハ銃劍ニ依リ敵ヲ擊退スヘシ而シテ遂ニ敵ノ爲ニ胸牆ノ一部ヲ占領セララルニ

至ルモ尙之ヲ包圍スル如ク逆襲ヲ行ヒ極力之ヲ驅逐スルヲ要ス
第四百五十一 敵ノ突擊ヲ擊退シタルトキハ工兵ハ歩兵ト共ニ確實ニ胸牆ヲ占領シ要スレハ補修工事ヲ行ヒ以テ敵ノ突擊復行ニ備フヘシ

第四百五十二 逆襲其效ヲ奏セス堡壘全ク敵ノ有ニ歸セントスルトキハ敵ノ占領工事ヲ妨害シ又豫メ裝置セル地雷ヲ爆發シテ敵ヲ殲滅スヘシ

第三部 敬禮及觀兵ノ制式、刀及

喇叭ノ取扱法

要則

- 第一 敬禮及觀兵ノ制式ハ常ニ軍隊ニ練習シ置クヲ要スルモノニシテ最モ嚴正ニ行フヘキモノトス
 - 第二 捧銃ノ操作ニ關シテハ第一部ニ示ス執銃ノ爲ニ掲クル諸規定ニ從フヘシ
 - 第三 行進間ノ敬禮及分列ニハ正規ノ歩法ヲ用フルモノトス
- 捧銃

第四 立銃ヨリ捧銃ヲ爲サシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

捧け 銃

第一舉動 右手ヲ以テ銃ヲ上ケ體ノ中央前ニ持チ來シ銃身ヲ後
ロニシ之ヲ垂直ニス同時ニ左手ヲ以テ木被ノ下ニ接シテ銃ヲ握リ
拇指ヲ銃床ニ沿ヘテ伸ハシ前臂ヲ輕ク體ニ接シ殆ト之ヲ水平ニス
第二舉動 右手ヲ以テ輕ク銃把ヲ握ル
立銃ニ復セシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

立て 銃

第一舉動 右手ヲ以テ木被ノ所ヲ握リ右肘ヲ輕ク體ニ接ス
第二舉動 右手ヲ以テ銃ヲ下ケ小指ヲ木被ノ上ニ當テテ腰ニ支

へ同時ニ左手ヲ下ロス

第三舉動 銃ヲ靜ニ地ニ下ロス

頭右(左)

第五 頭右(左)ヲ爲サシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

頭 右(左)

頭ヲ約四十五度右(左)ニ向ク

正面ニ復セシムルニハ左ノ號令ヲ下ス
直レ

觀兵ノ制式

第六 閱兵式ノ隊形ハ縱隊橫隊第一トシ分列式ノ隊形ハ中隊

縦隊 第二圖 ヲ用フ

第七 中隊縦隊ノ各小隊間ニ於ケル距離ヲ閉^ツメシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

距離ヲ閉メ

中央及後尾ノ小隊ハ前方小隊ニ距離ヲ閉メ第二圖乙號ノ隊形トナル

舊隊形ニ復セシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

距離ヲ取レ

中央及後尾ノ小隊ハ前方小隊ヨリ定規ノ距離ヲ取ル

第八 分列行進ヲ起サシムルニハ大隊長ハ左ノ號令ヲ下ス

分列に前へ 進メ

豫令ニテ押伍列ニ在ル者ハ列中ニ入ル

刀及喇叭ノ取扱法

第九 各級指揮官、准士官及下士ハ密集及集合隊形ニ在リテハ拔刀ス但戦闘ニ際シテハ中隊長以下ハ拔刀シ大隊長ハ所要ノ時期ニ於テノミ拔刀スルモノトス

敵ノ目視ヲ避クルヲ要スルトキ及作業中ハ拔刀セサルモ妨ケナシ

第十 刀ヲ佩フルニハ第一環ヲ鉤ニ懸ケ柄ヲ後ロニス馬上ニ在リテハ鉤ニ懸クルコトナシ

第十一 停止間ニ在リテ刀ヲ拔クニハ姿勢ヲ崩スコトナク左手ヲ以テ刀ノ柄ヲ前ニ向ケ其拇指ヲ内ニシ第一環ノ所ヲ握リ右手ヲ以テ刀ノ柄ヲ握リ刀身ヲ鞞ヨリ抜キ右臂ヲ右前方ヘ高ク伸ハシ恰モ茲ニ一節ヲ示スカ如クシテ速ニ肩刀ヲ爲シ同時ニ左手ヲ下ロス

肩刀ノ法ハ刀ノ柄ヲ右手ノ拇指ト食指及中指トノ間ニ保チ他ノ二指ヲ刀ノ柄ノ外ニ附シ其手ヲ右臑骨ノ稍下方ニ著ケ刀身ヲ垂直ニ立テ刀背ヲ肩ニ托シ少シク肘ヲ後方ニ出ス
停止間拔刀ノ儘休憩スルニハ刀尖ヲ上ニシ右臂ヲ垂レ或ハ之ヲ體ノ前ニ致シ左手ヲ以テ右手ヲ支ヘ刀身ヲ臂ニ托ス

第十二 停止間ニ在リテ刀ヲ納ムルニハ刀ヲ垂直ニ上ケ其刀面ヲ顔ノ中央ニ對セシメ鏝ヲ口ノ高サニ齊クシ肘ハ自然ニ體ニ接ス

同時ニ左手ヲ以テ第一環ノ所ヲ握リ鞞口ヲ前ニ向ケ刀身ヲ左臂ニ沿ヘテ刀尖ヲ後ロニ下ケツツ右拳ヲ高ク上ケ頭ヲ稍左ニ傾ケ眼ヲ鞞口ニ注キ刀尖ヲ鞞ニ入レ全ク刀身ヲ納メ柄ヲ後ロニシ速ニ兩手ヲ下ケ頭ヲ正面ニス

第十三 拔刀ノ儘行進スルトキハ右手ノ甲ヲ前ニシ鏝ヲ握リ臂ヲ垂レ刀背ヲ肩ニ托シ鞞ハ鉤ニ掛ケタル儘左手ヲ以テ之ヲ握リ兩手ハ自然ニ振ル

第十四 馬上ニ在リテハ左手ニ韁ヲ執リ右手ヲ左臂ノ上ヨリ左側ニ下ロシテ刀ノ柄ヲ握リ第十一ニ準シテ抜刀ス但肩刀ニ於テ柄頭ヲ右股ニ托シ右手ノ脈部ヲ臆骨ニ接スルヲ異ナリトス刀ヲ納ムルニハ第十二ニ準ス

第十五 抜刀シアルトキ刀緒ハ觀兵式ノ場合其他ハ必要ニ應ジ右手ニ嵌ムルモノトス

第十六 刀ノ禮ハ肩刀ヨリ行フモノトス

第一舉動 刀ヲ垂直ニ上ケ其刃面ヲ顔ノ中央ニ對セシメ鑿ヲ口ノ高サニ齊クシ肘ハ自然ニ體ニ接ス之ヲ捧刀ト謂フ

第二舉動 右臂ヲ全ク伸ハシテ刀ヲ斜ニ下ケ爪ヲ上ニシテ拳ヲ

右股ヨリ少シク離シ頭ヲ向ケテ受禮者ノ眼或ハ敬禮スヘキモノニ注目ス

敬禮終レハ肩刀ニ復ス

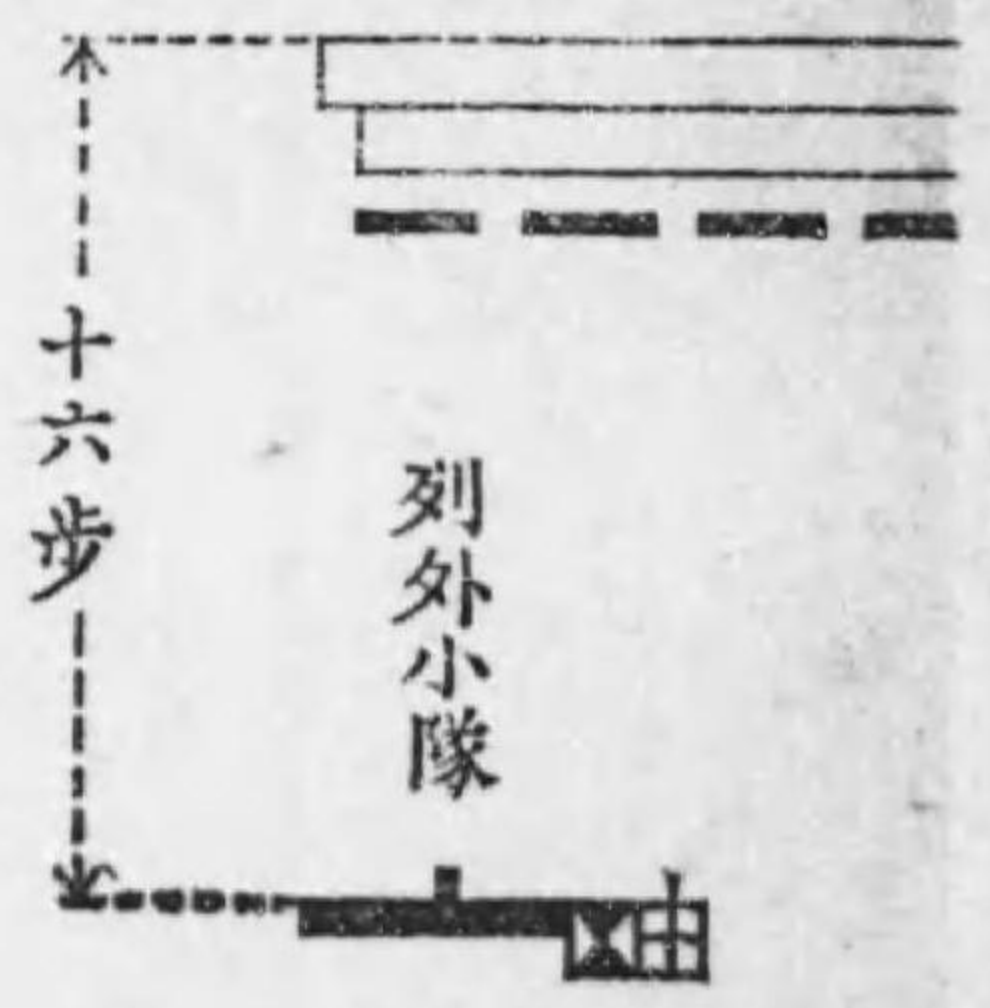
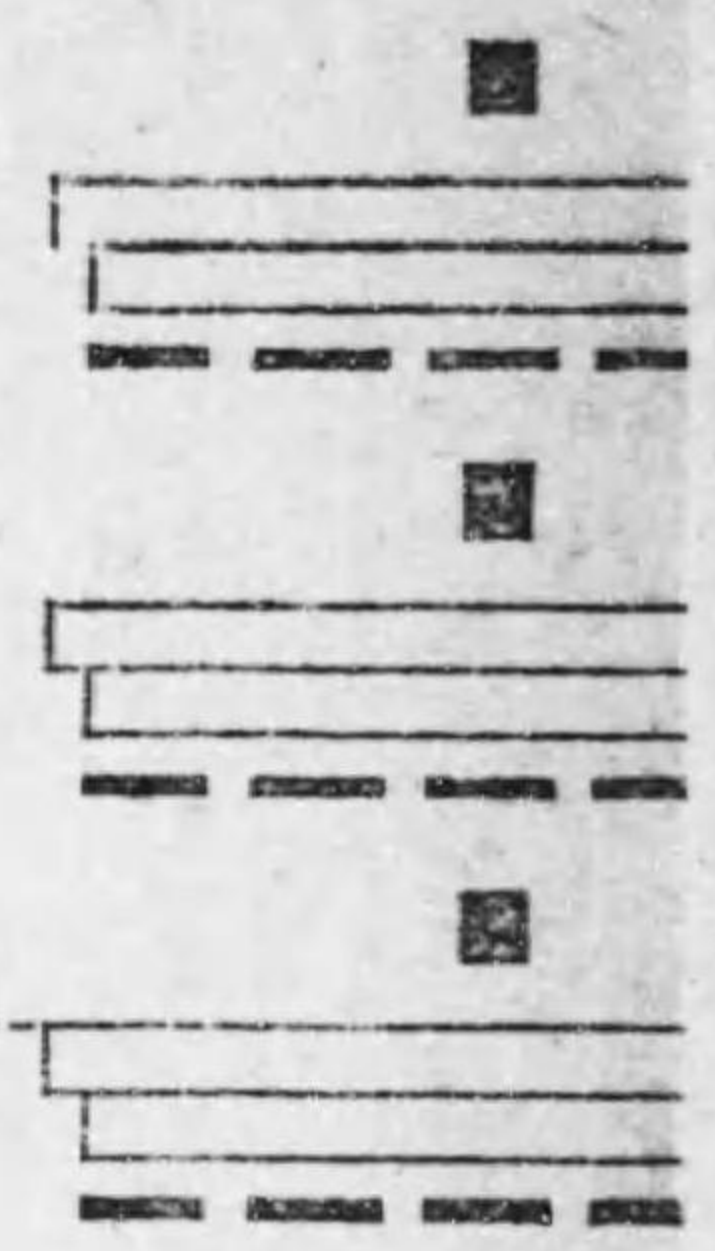
第十七 喇叭ヲ携フルニハ飾紐ヲ頸ニ懸ケ右手ヲ以テ喇叭ヲ握ル其法拇指ヲ上ニシ食指ヲ開闔螺ニ接シ其他ノ指ハ食指ト共ニ閉チ接著管ヲ輕ク右手ノ脈部ニ接シ中指ヲ袴ノ縫目ニ當テ之ヲ水平ニ保チ正シク前方ニ向ハシム

行進スルトキハ之ヲ自然ニ振ル

第十八 喇叭ヲ吹奏スルトキハ接著管ヲ左方ニシ之ヲ水平ニ保ツ

工兵操典終

隊中三



主

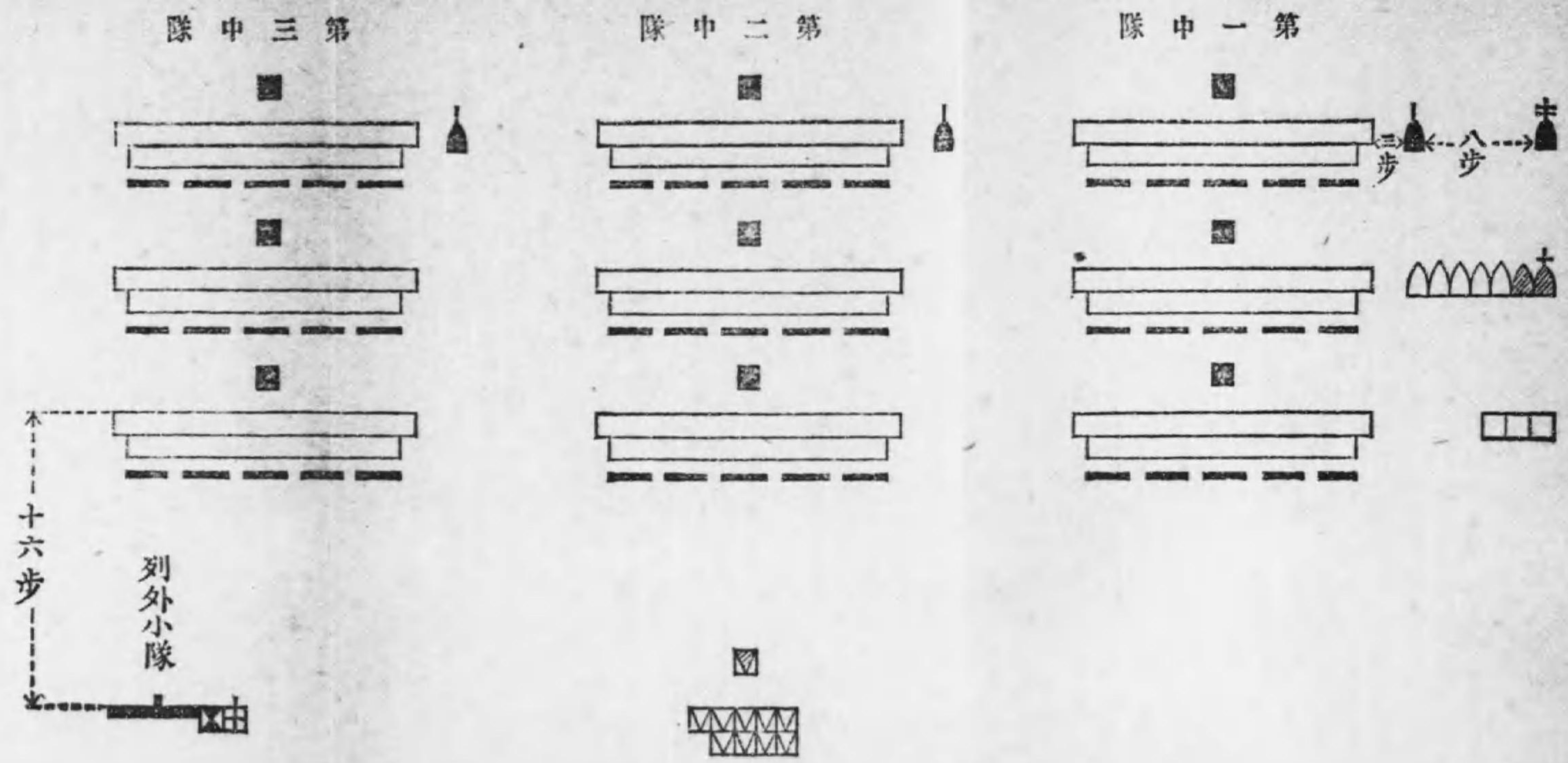
計

備考

- 一、總テ各隊ノ距離間隔ハ伸縮スルコトアリ
- 二、士官候補生ハ中隊中ニ位置ス
- 三、列外小隊ハ大隊本部附曹長、軍曹、看護長、計手、諸工長、看護卒ノ順序ニシテ古參ノ曹長、軍曹之ヲ指揮ス

第

圖 一



備考

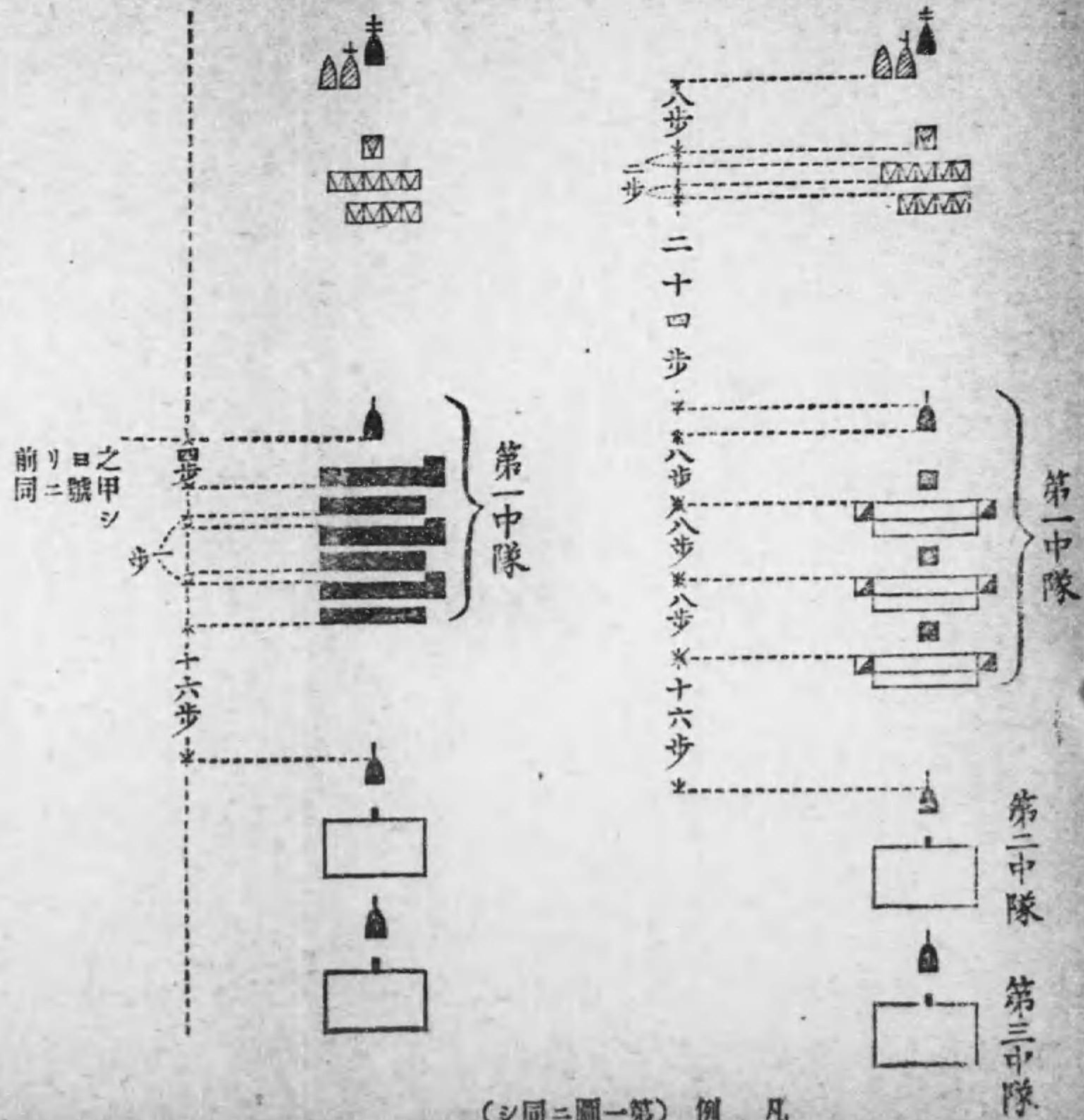
- 一、總テ各隊ノ距離間隔ハ伸縮スルコトアリ
- 二、士官候補生ハ中隊中ニ位置ス
- 三、列外小隊ハ大隊本部附曹長、軍曹、看護長、計手、諸工長、看護卒ノ順序ニシテ古參ノ曹長、軍曹之ヲ指揮ス

凡

例

- 大隊長 (Symbol: 大)
- 中隊長 (Symbol: 中)
- 小隊長 (Symbol: 小)
- 大隊附少佐 (Symbol: 大附)
- 大隊副官 (Symbol: 大副)
- 編成ニ加フ尉官 (Symbol: 尉)
- 編成ニ加フサル見習士官 (Symbol: 編)
- 喇叭長 (Symbol: 喇叭)
- 喇叭手 (Symbol: 喇叭手)
- 軍醫 (Symbol: 軍醫)
- 主計 (Symbol: 主計)

號 乙 圖 二 第 號 甲



備考

- 一、甲號隊形ニ在リテハ押伍列ニ在ル者、乙號隊形ニ在リテハ右翼分隊長及押伍列ニ在ル者ハ當該小隊ノ左翼ニ到リ二列トナル
- 二、列兵少ナキトキハ各小隊チ一列ニ編成スルコトアリ
- 三、總テ隊間距離ハ伸縮スルコトアリ
- 四、敬禮ハ中隊毎ニ之ヲ行フ
- 五、編成ニ加ラサル大隊附尉官、見習士官、軍醫、主計及列外小隊ハ分列式ニ參與セサルモノトス
- 六、大隊附少佐及副官ハ大隊長ノ半馬身左後方ニ位置スルモノトス
- 七、樂隊ナキトキハ喇叭手ハ大隊長ノ十六歩前ニ位置スルモノトス

大正二年五月十八日印刷
大正二年五月二十二日發行

工兵操典與附

定價 金拾錢

陸軍省
檢閱濟

翻刻
發行者

兵用圖書株式會社

代表者 小林 又七

印刷者

東京市麴町區平河町一丁目二番地
高井 福太郎

電話番町三九八〇番
電話番町一六二九番

兵用圖書
株式會社
發行所

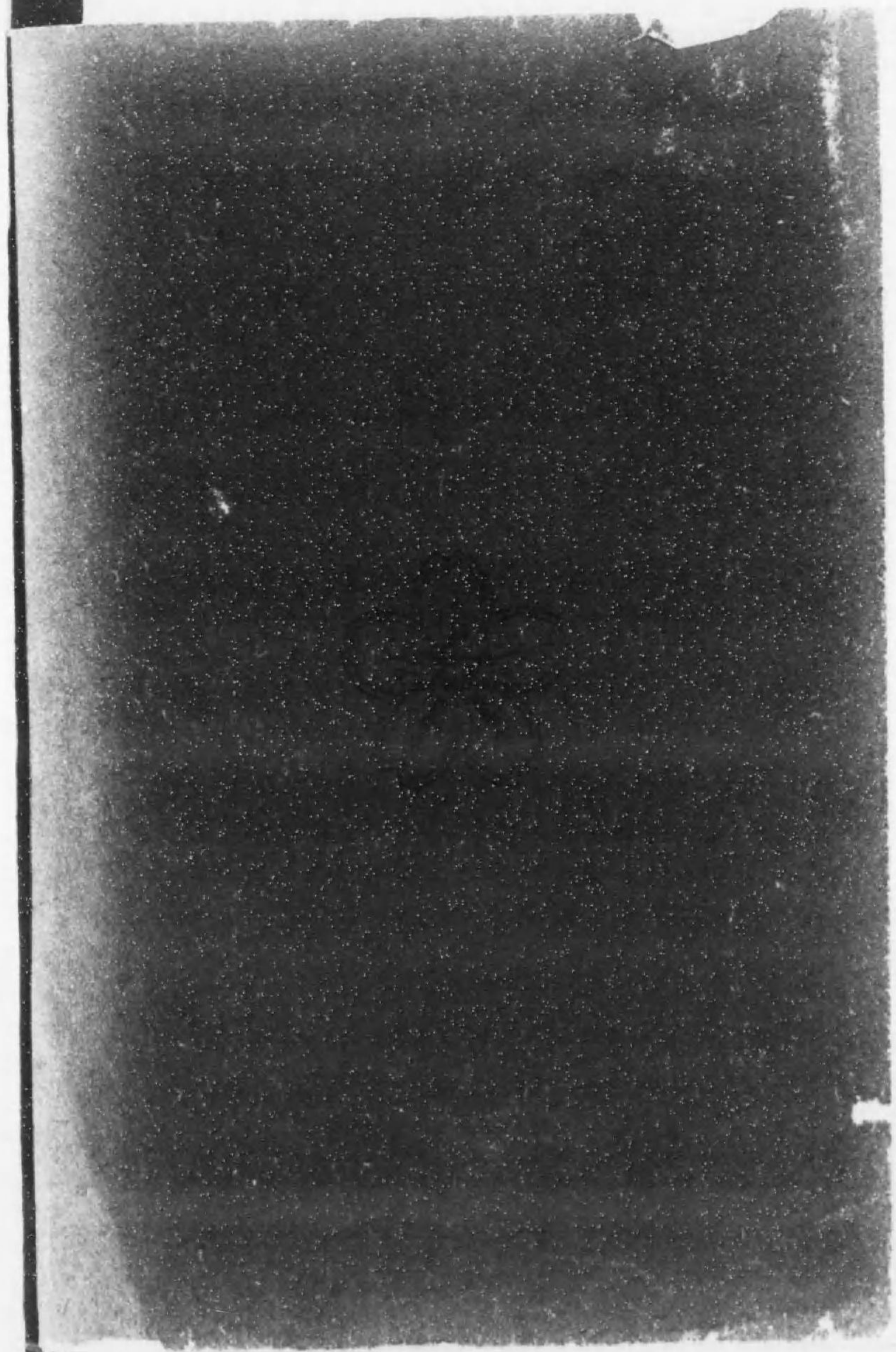
發行所

兵用圖書株式會社

電話番町三七七四番
振替東京一八〇八八番

274
145





終

